



# キーワードは「問い」と「深い学び」

PTリーダー 辻崎千尋 教諭

1学期間、先生方には大変お世話になりありがとうございました。2月にPTを立ち上げ、4月から本格的に活動を開始しました。リーダーとしてはあまり肩に力を入れすぎず取り組んできたつもりです。その中で本校の若手教員たちのスマートでスピーディーに授業実践していく様子に、舌を巻いています。一方、ベテランの先生方の深みあるアドバイスや授業実践をうかがうと「まだまだ追いつかない。」と未熟さを痛感します。

新採用のときから言われてきた

「授業が一番大事」「授業で勝負するんだ」という言葉が、今、私に迫ってきています。



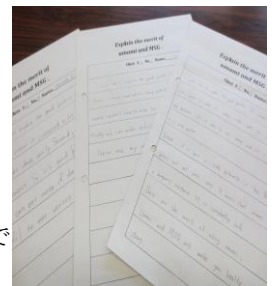
ただ、ALをすればよい、授業スタイルを変えれば良いというのではなく、目の前の生徒にどんな力をつけてあげるかを考え、ゴールまでの道筋を明確にし、その過程に必要な手段・方法としてのALを活用すべし、と思いつながりながら実践は難しいです。新学習指導要領が求める「力」に、「深い学び」とそこに導く良質な「問い」は欠かせません。そして良質な「問い」には教材研究をする時間が必要です。今の私には、圧倒的にこの教材研究の時間が足りません。なんとか捻出して2学期からはもう一工夫できるような授業をしていきたいという思いを抱いています。トライアル&エラーを繰り返しながら、生徒に確かな学力を還元できるよう、真摯に授業に向き合っていきたいと思っただけは強いです。

7月最後の職員会議でいただいた先生方からのご感想、ありがとうございました。温かく見守っていただいていること、応援していただいていることが伝わり、心が温かくなりました。前に進むエネルギーをいただいたので、2学期もさらにパワーアップして活動してまいります。今後ともどうぞご最真に(^\_^)

## 授業実践報告

鈴木和彦 教諭 1年4組 「コミュ英I」

授業の後半部分でALTのザックがビデオレターとしてスクリーンに登場。「私の友人が旨味成分を毛嫌いしている。なんとかその良さが伝わるような手紙を書いて欲しい」。その日の英語の授業で取り扱った教材は「第5の味覚・旨味」について。授業で学んだことを、最後に手紙を書く、という形でまとめていく手法はとても斬新でした。日本が起点となっている食文化を外国人に説明する、という設定もおもしろく、生徒はその時間に学んだ知識を駆使しながら真剣に取り組みました。別の単元で学んだ情報・知識を利用して手紙を書いた生徒もあり、生徒の可能性の広がりを感じることができたようです。また、教える立場にある授業者に対してではなく、「ザックの友人」という第三者に対して授業で学んだことをoutputする、という手法は、生徒たちの持つ表現力をよりうまく引き出したように感じました。



# 第4回PT会議より

## 1学期を終えて～PTメンバーが取り組みを振り返る～

第4回PT会議では、メンバーの1人1人が1学期の取り組みを振り返り、2学期以降の研究活動につなげていくことを確認しました。今回の会議にも谷口典先生や松原先生に参加していただいたことで、より活発な意見交換の場となりました。



期末考査後の特時で他教科とのコラボをしたかったが、実現できなかった。準備段階だが、コラボ授業には幅広い知識よりも専門的な深い知識が必要だと感じた。

1学期を終え、生徒に授業の感想を書ってもらった。生徒の言葉を、今後の授業改善につなげていきたい。

はじめてこの会議に参加させてもらったが、話を聞いているだけでもおもしろくて勉強になる。授業ではちよつとした工夫で生徒は生き生きしてくる。

アクティブラーニングにとらわれすぎて、ゴールを見失いがちになることがある。生徒にこういう力をつけたい、というものをしっかり見据えておきたい。

何度も討論に取り組ませたが、議論が盛り上がりすぎて「楽しかった」で終わってしまうことも多い。一人で意見を書かせた方が、思考力・表現力を養えることもある。

パワーポイントを利用した授業を行ったが、板書とのメリハリが大事だと感じた。

## 「学んだことを手紙で表現」 ～ビデオレターを使って～

ひとりごと 授業実践で活用されていたビデオレターの手法。第2回PT会議で複数科目間のコラボ授業について意見交換しましたが、他科目の先生がビデオで登場する、というのは効果的だと感じました。ビデオだと、登場した先生をいじることもできますし…。1学期の武高ACTIVEの活動をふり返ると、「お気軽けど中身は濃厚」といった感じです。若い先生方の熱いエネルギーを感じ、私も5歳ほど若返った気分です。